

# 2025年度大学入試に向けた高校の検討課題

各大学が公表する2025年度入試に関する情報を受け、高校はどのような観点で、今後自校が取り組むべき課題を検討すればよいのか。ここでは、検討の観点について考えた上で、その観点において取り組むべき課題に先進的に着手した2つの高校の事例を紹介する。

## 観点①

### 教育課程や教育活動の見直し

大学からの入試科目の公表後、すぐに動き出せるよう、現時点での情報で対応を検討

2025年度入試に向けて、どのような指導をしていけばよいのか、各大学が公表した22年9月時点の25年度入試の情報から、今後、各校で検討すべき事項を①に整理した。

最も影響が大きいのは、現高校1年生だ。志望校の受験に必要な科目が履修できるようにしているか、出題内容をカバーできる指導計画となっているかを確認したい。また、入試制度の変更は、経過措置科目や出願動向の面で現高校2年生にも影響があるため、24

年度入試での対応が求められる。

さらに、25年度入試の出題科目が明らかになった後は、23年度に入学する現中学3年必生以降の学年で、どのような教育課程を編成するか検討が必要になるだろう。

最終的な判断は、23年3月にすべての大学が25年度入試の出題科目を公表し終えてからとなるだろうが、①の学年別のチェックポイントに沿って校内での検討を進め、対応を想定しておくことで、情報が出そろった時に、すぐに動き出せるようにしておきたい。

## 観点②

### 探究学習と総合型・学校推薦型選抜

探究学習で深めたことと、大学で学びたいことの一致点を探る指導を

総合型・学校推薦型選抜を受験する場合、②のように、様々な対応を早期化する必要がある。2年次3学期を「3年次0学期」として一般選抜に向けたスタートを切るのと同様に、2年次11月頃に総合型・学校推薦型選抜を生徒に意識させるとよいだろう。例えば、志望する選抜方式にかかわらず、2年生全員が志望理由書を書くことを、受験への意識を高める機会とする高校も増えている。

P.5で示した通り、「探究型の入試」が拡大傾向にある中、探究

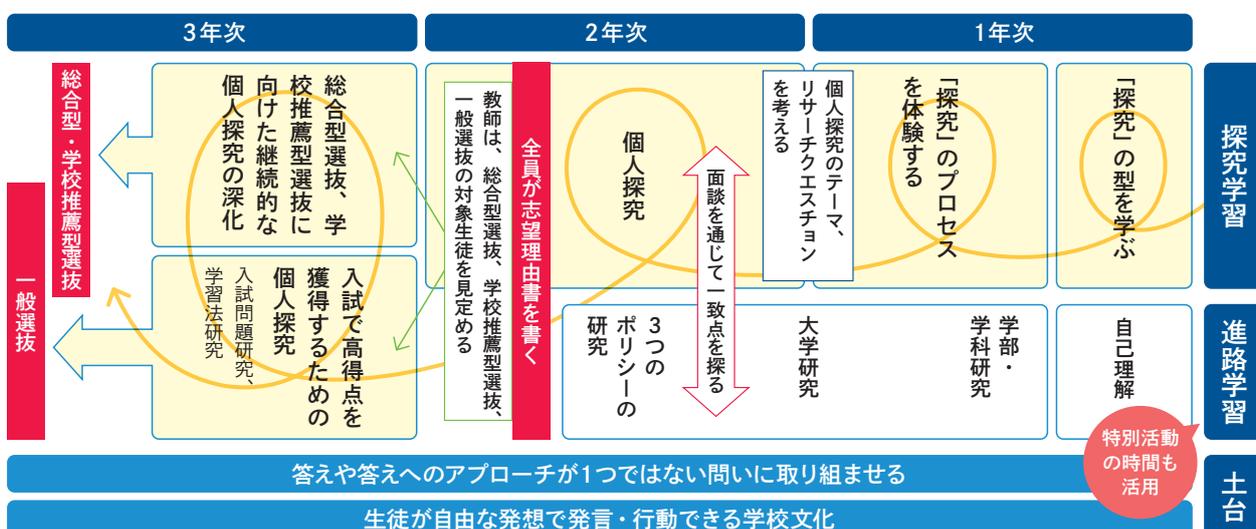
学習で深めてきたことが、志望校で学びたいことと合致すると、充実した志望理由書を書くことができる。1年次から探究のプロセスを繰り返し経験し、2年次には、自身の探究学習が大学で学びたいことにどうつながるのか、面談などで教師が示唆を与え、探究学習と進路の一致点を探っていく。また、探究を深める土台となる、答えや答えへのアプローチが1つではない問いに取り組みせる授業や、生徒が主体的に活動できる学校文化を築くことも重要だ。

図1 2025年度大学入試に向けた学年別のチェックポイント

|  |   |
|--|---|
| <p>現高校2年生</p>  | <p><b>☑ 経過措置科目『旧情報（仮）』の試作問題の校内実施</b><br/>                 大学入試センターは、22年11月9日をめぐり、『旧情報（仮）』の試作問題を配点とともに公表する。国立大学志望者が、仮に高校卒業後に再度大学を受験することになった場合、多くは『旧情報（仮）』を受験しなければならない。1・2年次に情報を履修している場合、2年次の段階で、どの程度得点できるのかを確認しておきたい。本人が大丈夫と思えば、それでよく、難しいと不安になっていたら、現役合格への後押しになる。</p> <p><b>☑ 高い志望の堅持</b><br/>                 入試制度が変更される前年は、過去のデータから、例外なく安全志向になり、志望校の難易度を下げる生徒が増えることが分かっている。志望校別に集会などを行い、志望校への揺るぎのない思いを醸成しておきたい。</p>  |
| <p>現高校1年生</p>  | <p><b>☑ 教育課程や指導計画の点検</b><br/>                 生徒が志望校を受験できない教育課程になっていないか、また、3年次に配置されていることが多い学校設定科目で具体的に何を指導するのか、次の観点で点検しておきたい。（詳細はP.6～7参照）</p> <p><b>【地理歴史・公民】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学入学共通テスト『地理総合、歴史総合、公共（から2科目）』で受験できない大学・学部は少なくない。『公共、倫理』『公共、政治・経済』であれば、ほぼ全大学への対応が可能になりそうのため、特に理系の3年次に「倫理」「政治・経済」が設置されていれば、入試科目として利用しやすくなる。</li> </ul> <p><b>【数学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文系・理系とも、個別学力検査において、「数学B」の「統計的な推測」の出題を想定した指導計画が必要だ。一方、文系における「数学C」の「平面上の曲線と複素数平面」は、学習していなくても受験に支障がないと考えてよいだろう。</li> <li>「数学A」「数学B」「数学C」の出題範囲を明示していない大学が多い。「数学A」の「数学と人間の活動」、「数学B」の「数学と社会生活」、「数学C」の「数学的な表現の工夫」の指導に悩むところだが、少なくとも「数学A」の「数学と人間の活動」には、整数の約数や倍数、ユークリッドの互除法、二進法等が含まれるので、学習しておくのが望ましい。</li> <li>これまでの大学入学共通テストで「数学Ⅱ」を受験する生徒が多かった高校では、『数学Ⅱ、数学B、数学C』の受験が可能な教育課程になっているか、確認が必要。</li> </ul> <p><b>【情報】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3年次に何かしらの形で対応することになると思われるが、担当できる教師がいなかった学校もある。対応を必要とする生徒数、指導可能な教師数を踏まえて、教育課程内で対応できるのか、補習などで対応するのか、教材は何を使用するのか、どのように進めるのかを検討しておきたい。場合によっては、生徒同士が学び合う体制づくりも考えたい。</li> </ul> <p><b>☑ 2年次の科目選択に向けて（理系）</b><br/>                 25年度入試で、大学入学共通テスト及び個別学力検査の理科の科目指定を変更する大学がある。志望校が明確な生徒には、現行入試の出題科目で判断せず、志望校が25年度入試の出題科目を公表したかどうかを自ら確認させて、判断するよう指導する。23年3月まで、すなわち、校内の選択科目決定時期までに公表しない大学もあり得るため、柔軟な対応ができるようにしておきたい。</p> <p><b>☑ 大学入学共通テスト試作問題の研究</b><br/>                 大学入試センターは、22年11月9日をめぐり、地理歴史、公民、数学、情報について、各出題科目の全体の構成が分かる試作問題を配点とともに公表する。試作問題の傾向を定期考査等に取り入れられるよう、各教科で研究を進めたい。1年次の履修科目については、部分的にでも、試作問題に取り組みせるとよいだろう。</p> |
| <p>2023年度入学生<br/>                 （現中学3年生）<br/>                 以降</p> | <p><b>☑ 教育課程の見直し</b><br/>                 教育課程は既に決定しているだろうが、上記の現高校1年生のチェックポイントに照らして、可能な限り安定した教育課程の編成を検討したい。</p>   |

※編集部で作成。

図2 3年間の探究学習と進路学習の進め方（例）



※編集部で作成。